



令和6年度 地域商業活性化モデル創出事業委託業務

おきなわ地域未来創造プロジェクト 成果事例集

はじめに

本成果事例集は、「おきなわ地域未来創造プロジェクト」において、ワークショップを通してアクションプラン作成に取り組み、商業集積エリアの推進体制としてのモデルとしてまとめたものであり、このような取組が県内全域に広がることを目的としております。

今後、是非ご活用頂きたい事例集です。

<成果事例>

【スクラム研修】

うるま市 みどり町通り会

宮古島市中心市街地活性化協議会

【アフターフォロー研修】

名護まちなかプロジェクト

なはまちぐわー青年部

成果事例1 【うるま市みどり町通り会】

まちゼミ事業を通した未来を担う人材育成・発掘

地域の課題

- ・ 通り会（地域）を担う人材が不足していること
- ・ 会員を牽引する人材を発掘すること
- ・ 通り会活動の企画や活動推進の円滑化ビジョンや発展に資する方策がないこと、うるま市では、年に数度、若いファミリー層、子供たちのイベントを開催し、多くの地域の方が集まる。また、地域組織と商店会の関係性も良く、まち商店会への新規出店も多い地域である。一方で、事業実施に向けての商店会ビジョンが明確化されていない事が課題であった。

目指す姿

- ・ 各役割を明確にすること
- ・ 通り会を担う人材を確保すること
- ・ 通り会のビジョンや方策を決定すること

アクションプラン

※6回のワークショップを実施し、アクションプランを策定した。

ワークショップでは、まち歩きやヒアリングで地域の現状と課題の発見をした上で、既存の成功事例をインプットし、SWOT分析、意見交換をすることから始め、持続可能なプランの検討など意見交換でアウトプットをしながら、課題解決の為のアクションプランを策定した。

アクションプラン

テーマ ≫ 「みんながチャレンジできるまち！」

- ・ 地域で経済が回るシステム、すべてのやり取りができる。
- ・ コミュニティが回る、様々な情報が伝わる。
- ・ 経済が進む仕組みが商店街にあるとよい。
- ・ 拡散力が上がると良い、既にコミュニティがある、LINEの普及。
- ・ 地域で地域の方に利用させているのか気になる。
- ・ 地元に愛される商店街・自慢ができる店

具体的な取組

計画策定に留まらず、スクラム型研修と並行して、実践的なアプローチで事業を推進した。

チャレンジに責任をもって出来る方を応援する為に、『まちゼミ』を開催した。

『まちゼミ』の実施により！

三方よしの活性化事業！



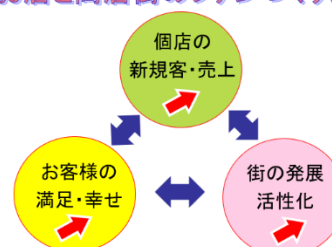
・新たなメンバー
との出会い

・通り会＆個店
の繁盛推進

課題の解決に向けて

新たな通り会を担う、会員を牽引する人材の発掘
通り会活動の企画や活動推進の円滑化、ビジョンの策定

お客様の満足・感動のうえ、
お店と商店街のファンづくりを行う



来街者を増やすのではなく多くの店舗で来店客を増やす取組み！

●「うるままちゼミ」に取り組んだ成果

- ・会員店舗の個社強化につながり、通り会への帰属意識が高まった
- ・通り会以外のメンバーとの関係性構築により、新たな人材の発掘に繋がった
- ・通り会と様々なステイクホルダーとのコミュニティ作りが加速した
- ・通り会事業の機運上昇ができた。

●「うるままちゼミ」の特徴

- ・Instagram 研修を取り入れ SNS 強化したこと
- ・通り会以外のメンバーも積極的に参加したこと
- ・多様な業種、事業者が参加したこと、及び、市役所、商工会のバックアップがあったこと

●「うるままちゼミ」実施後の展望

- ・熱意をもって初回の実施ができたことで、参加店舗の拡大が見込まれる
- ・SNS の更なる利用で、通り会の DX 化、IT 化の促進に繋がる
- ・地域の特徴を活かした取組であり、他の地域へのモデル的要素が確認できた

第1回うるままちゼミ チラシ



第1回うるままちゼミ 講座風景

スケジュール

ファーストアクション	短期（～半年）	中期（半年～3年目）	長期（4年目以降）
「まちゼミ」の実施 ・地域で経済とコミュニティが回る ・地域人材の創出	関係創りの構築 ・市役所、商工会も含め個社、地域の更なる連携構築	社会実験の実施 ・遊休地などの検討 ・エリアのビジョン構築	持続可能な組織展開 ・新たなまちづくり組織、持続的仕組の構築

<ワークショップ参加者>

- ・リーダー：知念氏（コミュニティ・みどり町通り会代表）
- ・主たる参加者：久田氏、友寄氏、金城氏、神田氏、天願氏、上原氏、屋嘉比氏

参考となるポイント

専門家チームからの考察(人材資源、事業への取り組み)

▶アクションプランについては、議論を進める過程で、計画づくりだけでなく本年度内に小さくても事業実施ができ、仕組みを構築できたのは良かった。事業者の意識、関係構築も研修を通じて高まり、多様な人材のネットワークができたと言える。今後はこのネットワークを活かしてエリアビジョンの策定や公共地における新たな展開の模索、様々な事業展開から活性化に進む事が期待できる。

専門家 松井洋一郎 メンター専門家 広瀬陽

事業実施組織：コミュニティーみどり町通り会
所在地：うるま市みどり町4-2-10
アクセス：うるま市役所バス停すぐ

成果事例2【宮古島市中心市街地活性化協議会】 「みんなのまち再生プロジェクト」

地域の課題

- ・まち再生のマンパワーが不足していること
- ・継続性のある賑わいづくり

目指す姿

- ・あらゆる目的の来街者が集まり賑わいのある中心市街地
- ・朝や昼間の時間帯にも多くの人が歩くまちに再編
- ・誘客イベントなどを定期的実施できる組織と共有空間
- ・にぎわいを分断する青空駐車場の集約による商空間整備
- ・歩行者が安全に歩けるまちづくり＝時間制交通規制
- ・地域防犯や環境保全を担うまちサポート組織が必要
- ・時間帯によって変わる客層に各店舗が対応できる情報共有
- ・住民や商業者が繋がりを深められるフォーマット
- ・歳末セールなど定期的な市民向けサービスの充実
- ・観光客と市民が交流できるまちのランドマーク機能
- ・まちなか居住を支える商業サービス空間を再構築

アクションプランについて

※6回のワークショップを実施し、アクションプランを策定した。

ワークショップでは、グループワークでの課題の明確化、まち歩きや講師からの各地の事例紹介、SWOT分析に基づく展望、持続可能な組織体制に向けて・イベント協議をし、アクションプランを策定した。

アクションプラン

テーマ ≫ 繋がりを育むみんなのまちー 安心安全で賑わいに満ちた市民の庭ー

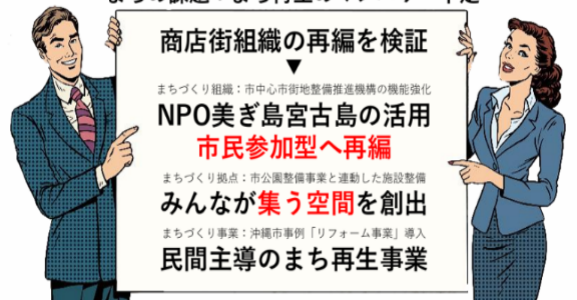
- ・「みんなのまち再生プロジェクト」とし、公園整備（根間公園整備）をすることでコミュニティの再生や定期的にまちなかイベントを実施する。
- ・NPO 法人を活用して根間公園の管理をすることができれば、イベントの開催や理想とするまちの再生ができる（ありたい姿の実現）
 - 持続可能な街づくり組織の再編
- ・持続可能性を重視した企画の実施
- ・官民連携における事業の計画立案

具体的な取組

- ① まちの再生のマンパワー不足への取り組み：NPO 法人である美ぎ島宮古島の活（NPO 法人を市民参加型へ再編する）
- ② 継続性のある賑わいづくりへの取り組み：まち再生への市民参画

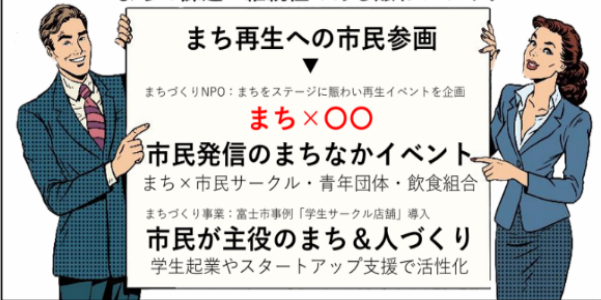
アクションプラン①

まちの課題：まち再生のマンパワー不足



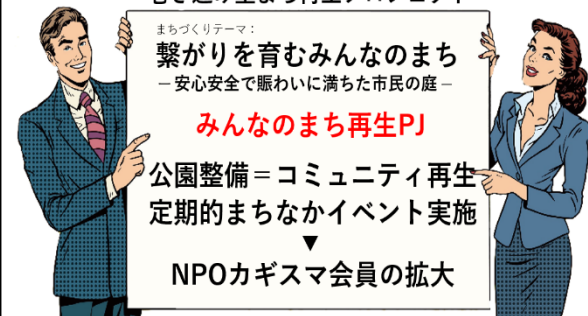
アクションプラン②

まちの課題：継続性のある賑わいづくり



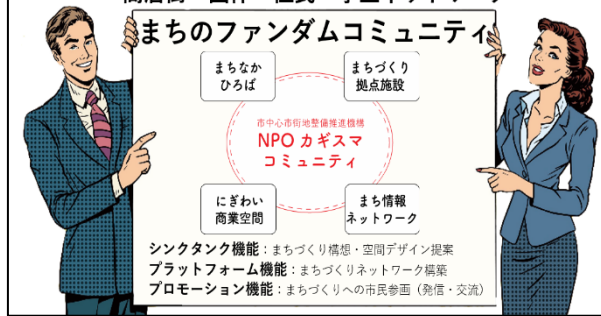
アクションプランの実現に向けて

巻き込み型まち再生プロジェクト



アクションプランの実現に向けて

商店街・団体・住民・学生ネットワーク



～アクションプランを実施していくために～

開催が予定されているイベント企画に各人が協定できる体制づくり

意見交換をするグループに「〇〇会」という名称をつけて定期的に集まる（模合など）

継続的な活動をしていくため、商業集積エリアにおいてDX化は欠かせない

スケジュール

ファーストアクション	短期（～半年）	中期（半年～3年目）	長期（4年目以降）
組織編成の方向性決定 ・商店街の再編成において、美ぎ島宮古島での取り組み実施	関係創りの構築 ・賑わい創出事業の実施、継続開催の仕組みづくり	まち再生の市民参画 ・まち×〇〇など、市民が主役となれる事業構築の確立	持続可能なまちづくり においての様々な仕組みの再構築

<ワークショップ参加者>

リーダー：濱元氏（宮古島中心市街地活性化協議会 事務局）

他の主たる参加者：大城氏、砂川氏、平良氏、藤田氏、富浜氏

事例のポイント

専門家チームからの考察(人材資源、事業への取り組み)

▶今回のワークショップでは参加者皆さんの目的（ありたい姿）の共有ができ、達成するための手段（組織編成）を決めることができた。宮古島市の今後のアクションに向けて、地域内の合意形成や合意形成ができる組織体制の強化が重要課題かと感じる。今回のワークショップをきっかけとして、目的達成の為に地域のメンバーで定期的に議論をして、活動を加速していくことを期待したい。

専門家 小口英二 メンター専門家 親川雅矢

事業実施組織：宮古島市中心市街地活性化協議会

所在地：宮古島市平良字下里812

アクセス：北小前バス停から徒歩10分

【アフターフォロー研修】

令和5年度にスクラム型研修を実施したチームに対し“アクションプラン”の実現に向けて、実行計画の具現化に向けフォロー研修を実施。

名護まちなかプロジェクト

前年度事業からの継続で、ウォークアブル推進のための地元啓蒙活動とアクションプラン(飲み歩きやまちゼミ、関係構築のイベント、エリアを限定した情報発信)の実行計画を策定

今年度の取組や結果・成果

名護まちなかプロジェクトチームとして、R5年度のスクラム研修終了後も、毎月メンバーで会合を開き、名護市のまちなかをエリアとして捉え以下の事業を実施した。

将来を見据えたウォークアブルエリアに向けた取り組み

■ オリオンビール様との連携

「なごの街、オリオンビールも飲める美味しいお店」をスマートフォンで紹介するプロジェクトを展開。

- ・ 名護社交飲食業組合との連携
- ・ あぐー（ちゃぐー）や名護で獲れた鮮魚が食べられる店舗の紹介

■ 名桜大学様との取り組み

若者（学生）目線のアイデアを活かし、以下の活動を実施。

- 名護の魅力を SNS で発信
- オリオンビールとのコラボレーション企画

■ さくら祭りでの取り組み

- 地元住民によるアテンドを実施し、地域のコンテンツを活用した交流体験を提供

観光、賑わい機能の強化・エリアを限定した情報発信

ウォーカブルに向けた取り組み

ウォーカブル MAP & WEB & SNS

● 店舗（居酒屋、カフェ、雑貨店等）

- ・みどり街（協力：社交飲食業組合）
- ・市場（協力：名護十字路商店連合会）
 - ※飲み歩きツアー（事業主体：社交飲食）
 - ※ガストロノミーウォーク
 - ※まちゼミ（学生と各店舗と連携したメニュー開発）

● 地域コンテンツ・イベント

- ・豊年祭・エイサー等（城、港区、大東区、大中区、東江等各区）
- ・地域イベント（さくら祭り／観光協会、夏まつり／商工会等）
- ・地域資源（名護漁港、名護城等）

①オリオンハッピーパーク（昼間の観光）

②市街地ホテル（宿泊）

③スポーツツーリズム（キャンプ）

- ・NPB：日ハムファイターズ
- ・Jリーグ：町田ゼルビア、東京ヴェルディ
- ・ラグビー：女子セブンズ日本代表、三重ホンダヒート
（2024年実績）

④ジャングリア+名護に1泊

他地域の連携

【バスタプロジェクト（実証）】

- 沖縄市 一番街
- うるま市
- 北谷町 等※県内の方が楽しめる街を PR

今後の展望

一過性のイベントではなく、地元企業や地元大学と連携し、持続可能な仕組みを構築することで、名護市のまちなかウォーカブルエリアの魅力向上をさらに加速させることができた。今後は、チームメンバーのステークホルダーを増やし、さまざまな事業を積み重ねることで、目指すエリアの価値向上を実現していく。

専門家 松井洋一郎 メンター・専門家 石上僚

事業実施組織：名護市中央商店街

所在地：名護市大中1丁目20-14

アクセス：名護十字路バス停から徒歩5分

なはまちぐわー青年部

「点火（ともし）」僕たちが、このまちの着火剤になることをテーマにまちに火を灯すための3つの『100』を設定。『100人』とつながるまちぐわー青年部、まちの『100年』を考えるまちぐわー青年部、『100万円』稼ぐまちぐわー青年部。本年度は以下の取り組みを実施。

組織の目的は、まちぐわー～のエリアマネジメント、商店街で働く若手の育成、人材交流のコミュニケーションの場所、イベントの実施などによる活性化の取り組みである。

今年度の取組や結果・成果

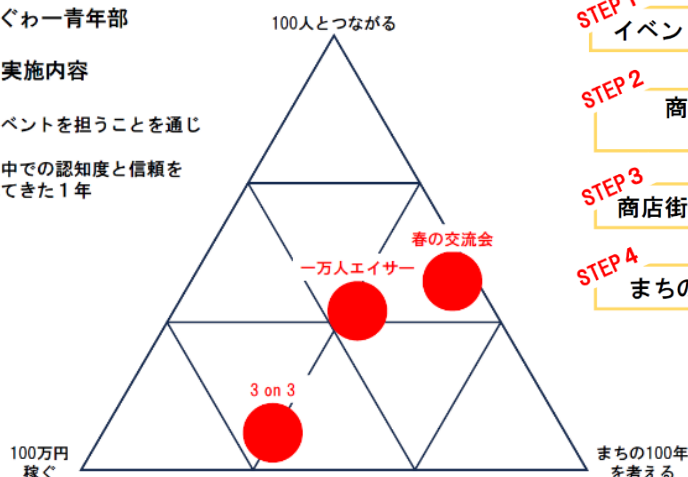
令和5年のスクラム研修後も、青年部として定期的に集まりを継続し、これらの集まりで青年部メンバーだけでなく、商店街活動に長年携わってきた方々も招き、意見を交わす場を設けた。その結果、これまで以上に団体とのつながりが強化された。また3on3 バスケットイベントや1万人エイサーなどのイベントを青年部が実施することで、より認知度が Up し、信頼関係が築けた。

なはまちぐわー青年部のこれから

なはまちぐわー青年部

2024年の実施内容

大きなイベントを担うことを通じて、商店街の中での認知度と信頼を積み重ねてきた1年



STEP 1

イベントを通じて認知度を高め、まちの信頼を得る

STEP 2

商店街の情報発信や事務を担える形になる
(商店街を支える組織に)

STEP 3

商店街の未来を考え、未来に投資できる活動を展開

STEP 4

まちの中核的な組織になるため、法人化を目指す

今後の展望

2025年度もこれらの活動を「イベントの実施」や「交流会」「忘年会・新年会」などの形で継続する予定である。

青年部のアクションプランである「100人と繋がる」を達成し、さらに長期的な目標である「100年後を考える」に向けた取り組みを続けていく。

2024年度のスクラム研修では、青年部のアクションプランとして、以下の3つの目標を掲げた。

1. 100人と繋がる
2. 100万円稼ぐ
3. 100年後を考える

これらの目標は互いに関連し、継続的な活動によって実現を目指している。2025年度も1万人エイサーを運営するなどさまざまなイベントに積極的に関わり、この方針に沿った年間計画を立て、さらなる発展を目指していく。

専門家 上田嘉通 メンター専門家 親川雅矢

事業実施組織：なはまちぐわー青年部

所在地：那覇市松尾2-10-1

アクセス：ホテルコレクティブバス停から徒歩5分

令和6年度 地域商業活性化モデル創出事業委託業務

おきなわ地域未来創造プロジェクト 成果事例集

発行 一般社団法人全国タウンマネージャー協会

主催 沖縄県商工労働部中小企業支援課

* 成果事例集は専門家チームの監修を経て作成しています。